

今回は、歴史漫画発刊イベントに関わる現地踏査の報告です。

◇ 関市・富加町の関連史跡、古い町並みの踏査を行いました！

日時： 令和5年2月5日（日）8：30～16：00

場所： 関城及び関町（午前） 加治田城下町（午後）

参加： 関市文化財保護センター 富加町教育委員会 関高等学校地域研究部、文芸部

指導： 森島一貴氏（関市文化財保護センター） 島田崇正氏（富加町教育委員会）

◇ 関城及び関町の踏査 ～生徒のフィールドメモより抜粋～

森島さんの案内で善光寺から安桜山に登った。岐阜城、伊吹山、白山、御嶽山、猿啄城が一望の下である（右写真）。山頂付近で戦国期の関城の遺構を見学した。豎掘や曲輪、切岸など、明瞭な遺構は北側に残る。不思議なことに、関町側の南斜面にはない。南斜面から本町方面に出て、新町を通り新長谷寺へ向かう。室町期にさかのぼる境内の建物群は国指定重要文化財。さらに南に歩き、大門町経由で春日神社へ移動した。祭神は関鍛冶の守護神。境内の能舞台で、刀鍛冶が自ら能を演じ奉納したという。春日神社から西に向い関川を渡ると観光施設のせきてらすがある。地下には、室町期の大規模な鍛冶工房、古町遺跡が眠っている。徒歩で3時間ほどのコース。



◇ 加治田城下町の踏査 ～生徒のフィールドメモより抜粋～



関町探訪のあと、午後は島田さんの案内で、加治田城下町を歩いた。『信長公記』によれば、加治田城下には、佐藤紀伊守とその息子がそれぞれ屋敷を構えていたという。文献や古地図、現地踏査をもとにした島田さんの推論を聞き現地を歩いた。土手のような龍福寺参道が、実は、武家屋敷の土塁だったと聞き驚いた（左写真）。そのあと、川浦川沿いの石垣を案内していただく。加治田の大商人平井家の敷地内にあった水車小屋の基礎だという。伝承によれば、加治田城の石垣を崩して運んだものだそうだ。松井屋酒造

のご主人、酒向嘉彦さん（本校卒業生）のお話では、護岸工事で破壊されるはずだった石垣を、施工業者に頼んでそのまま残したものだという。文化財は偶然残されるものではなく、地域の方々の見識や郷土愛があってこそ守られるものだということがよくわかった。

◇ 史跡マップと散策ルートの構想

津保川をはさんで対峙する関と加治田には、中世の山城と町がそれぞれ形成されていた。関は美濃齋藤氏の重臣長井氏の支配下にあり、一方の加治田の佐藤氏は織田氏に從属したため、両者の間で合戦も行われた（加治田・関合戦、右写真はその古戦場の絹丸）。近世を迎えると、関は門前町・職人町として、加治田は宿場町として大いに栄えた。次年度は、『齋藤新五利治』に登場するこのふたつの町をつないで、「史跡マップ」や「散策ルート」をつくる予定である。

